

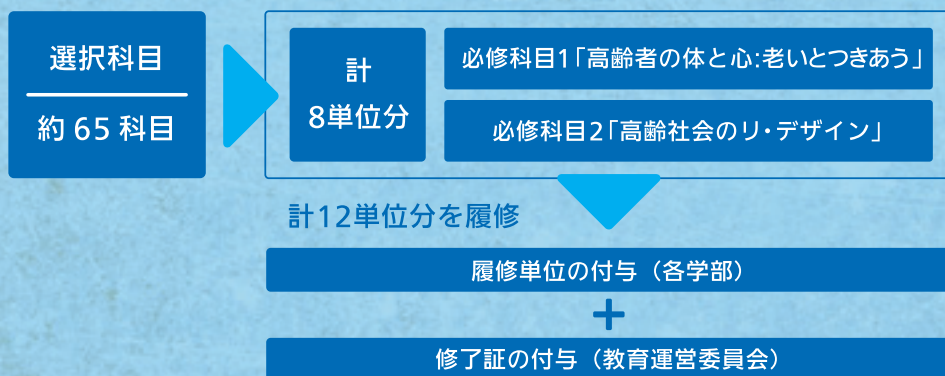


# 超高齢社会を支えるGerontology

ジェロントロジーとは、高齢者や高齢社会の諸課題を解決するために生まれた学際的学問です。医学、看護、理学、工学、法学、経済学、社会学、心理学、倫理学、教育学などの幅広い領域を包含します。2030年には3人に1人が65歳以上という超高齢社会を迎えた日本では、専門分化した学問だけでは対応が難しい複雑な問題が生じてきています。ジェロントロジーを学ぶことは、将来の専門領域に進む上でも非常に有用です。

総長室直轄の高齢社会総合研究機構では、ジェロントロジーに関する学際的教育基盤構築の一環として、2008年度より学部横断型教育プログラム「ジェロントロジー」を国内で初めて設置し、高齢者や高齢社会の諸問題に関する学際的な知識を有する学生の育成を行っています。あらゆる分野を目指す学生の参加を歓迎します。

## 学部横断型教育プログラム：プログラム構成



※ 修了証の発行には、卒業年の4月(10月入学の方は10月)までに、UT-MATEにて申請する必要があります。

**受講対象**  
学部**3~4**年生  
大学院生も  
履修可能

## 必修科目シラバス ※ 変更の可能性あり

### 高齢社会総合研究学概論 I 夏学期

<b>必修科目 1</b>	高齢者の体と心：老いとつきあう
<b>学部</b>	工学部
<b>時間</b>	水曜 6限 18:45-20:30
<b>場所</b>	工学部 11号館講堂
<b>単位数</b>	2単位
<b>責任教員</b>	大方潤一郎 (大学院工学系研究科都市工学専攻・教授 高齢社会総合研究機構・機構長)

月/日	担当者	所属	テーマ
4/13	秋山 弘子	高齢社会総合研究機構	ジェロントロジー：長寿社会を支える学際科学
4/20	飯島 勝矢	高齢社会総合研究機構	なぜ老いる？ならば上手に老いるには？
4/27	秋下 雅弘	医学系研究科	疾病・障害とヘルスプロモーション
5/11	上野 千鶴子(ゲスト)	NPO法人ウィメンズアクションネットワーク	ケアの当事者学
5/18	菅原 育子	高齢社会総合研究機構	高齢期の社会関係
5/25	橋詰 力	高齢社会総合研究機構	老化と生物学
6/1	山本 則子	医学系研究科	高齢者と看護学
6/8	伊福部 達	東京大学	身体機能を補う福祉工学機器
6/15	阿部 啓子	農学生命科学研究科	栄養とエイジング
6/22	高山 緑(ゲスト)	慶應義塾大学	知的機能の変化と適応
6/29	牧野 篤	教育学研究科	シニアの学ぶ、働く、遊ぶ
7/6	清水 哲朗	人文社会系研究科	死をめぐる諸問題
7/13	上田 啓介(ゲスト)	株式会社 木楽舎	次世代高齢者の価値観とライフスタイル

### 高齢社会総合研究学概論 II 冬学期

<b>必修科目 1</b>	高齢社会のリ・デザイン
<b>学部</b>	工学部
<b>時間</b>	水曜 6限 18:45-20:30
<b>場所</b>	工学部 11号館講堂
<b>単位数</b>	2単位
<b>責任教員</b>	大方潤一郎 (大学院工学系研究科都市工学専攻・教授 高齢社会総合研究機構・機構長)

月/日	担当者	所属	テーマ
9/28	横石 知二(ゲスト)	株式会社いろどり	生涯現役社会を目指して
10/5	白波瀬 佐和子	人文社会系研究科	高齢化の人口学
10/12	岩本 康志	経済学研究科	人口減少社会における年金と社会保障財政
10/19	濱口 桂一郎(ゲスト)	独立行政法人 労働政策研究・研修機構	年金に基づく雇用システムと高齢者雇用
10/26	大方 潤一郎	工学系研究科	超高齢社会の都市計画・まちづくり
11/2	大月 敬雄	工学系研究科	高齢期の住まい方
11/9	鎌田 実	新領域創成科学研究科	高齢者の移動を支える
11/16	廣瀬 通孝	情報理工学系研究科	シニア × ICT
11/30	武川 正吾	人文社会系研究科	社会福祉とコミュニティケア—歴史と理論—
12/7	戸枝 陽基(ゲスト)	社会福祉法人むそう	身体・認知機能を活かしたコミュニティビジネス
12/14	樋口 聡雄	法學政治学研究科	自己決定と本人保護
1/11	辻 哲夫	高齢社会総合研究機構	21世紀の医療・介護・福祉のかたちを考える
1/18	後藤 純	高齢社会総合研究機構	超高齢社会を支えるコミュニティ

